

平成 27 年度 第 2 回石狩市健康づくり推進協議会

- 日 時 平成 27 年 11 月 24 日（月） 18 時 30 分～19 時 30 分
- 場 所 石狩市役所 5 階 第 1 委員会室
- 出席者 下表のとおり

委 員			職 員（事務局）	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	阿部 包	○	保健福祉部健康推進担当部長	我妻 信彦
副会長	大林 啓二	○	保健福祉部保健推進課長	武田 涉
委員	中川 賀嗣	○	保健福祉部スポーツ健康課長	村谷 栄治
委員	我妻 浩治	○	保健福祉部国民健康保険課長	宮野 透
委員	天野 真樹	○	保健福祉部保健推進課主査	廣瀬 芳江
委員	江頭 裕二	○	保健福祉部保健推進課主査	竹瀬 麻紀
委員	廣島 孝	○	保健福祉部保健推進課主査	鈴木 啓之
委員	清水祐美子	×	保健福祉部スポーツ健康課主査	佐藤 政喜
委員	清野 和彦	○	保健福祉部国民健康保険課主査	青山 昌弘
委員	飯田 鉄蔵	○		
委員	中川 文人	○		
委員	熊谷 美香	○		
委員	花田美保子	×		
委員	百井 宏己	×		
委員	三国 義達	○		

- 傍聴者 1 名

1. 開 会

事務局（鈴木主査）

皆様こんばんは。

本日はご多忙の折、お集まりいただき御礼を申し上げます。

定刻まで少しお時間がありますが、皆様おそろいですので、ただいまより「平成 27 年度第 2 回石狩市健康づくり推進協議会」を開催いたします。

私、保健推進課主査の鈴木と申します。

会長に議事進行をゆだねるまで、私が進行役を努めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局（鈴木主査）

まずは、本日の出欠状況について報告させていただきます。

委員定数 15 名のうち、現在 12 名の委員の出席を得ており、出席委員が過半数に達しておりますので、本協議会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、本協議会は成立となることを報告いたします。

なお、欠席の委員は「清水委員」、「花田委員」、「百井委員」の 3 名となっております。

事務局（鈴木主査）

次に配付資料の確認をいたします。

こちらの「協議会次第」、「座席表」のほかに、事前に送付いたしました、「石狩市健康づくり計画（第二次）素案の第 1 章から第 3 章」と「健康意識に関する市民アンケート（案）」、本日配付資料として「計画書素案の第 4 章」、「石狩市健康づくり計画最終評価書」、「健康習慣及びがん検診に関するアンケート結果」及び「オール石狩で健康づくり」となっております。

もし不足や落丁、事前送付資料のお忘れ等がありましたら、事務局にお知らせくださいますようお願いいたします。

なお、以降の事務局員からの説明等につきましては、大変恐縮ですが座って進めさせていただきます。

2. 審 議

事務局（鈴木主査）

これより審議に入りたいと存じますが、以降の進行につきましては今までの慣例に習い、阿部会長をお願いいたします。

それでは会長、よろしくをお願いいたします。

阿部会長

皆様、お疲れ様です。

本日はご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の議題は、次第のとおり、1 点目として、「石狩市健康づくり計画の最終評価」及び「健康習慣及びがん検診に関するアンケート結果について」、2 点目として、「石狩市健康づくり計画（第二次）」の策定に関する議題として、「石狩市健康づくり計画（第二次）素案について」、次に、「健康意識に関する市民アンケート（案）について」の審議となっております。

限られた時間でもございますので、皆様のご協力をいただき、円滑な運営に心がけたいと思います。

よろしく願い申し上げます。

それではこれより、「石狩市健康づくり計画の最終評価」及び「健康習慣及びがん検診に関するアンケート結果について」、事務局より説明を受けたいと思いますので、よろしく願いします。

事務局（鈴木主査）

保健推進課の鈴木です。宜しく願いします。

1 点目の議題について、私よりご説明申し上げます。

前回 8 月に開催されました本協議会において、現健康づくり計画の最終評価を報告し、審議していただいた中で、各委員のご指摘・ご意見等を踏まえて、本日配付しました資料の内容を訂正、追記いたしましたので、ご覧いただきたいと思っております。

主な追記内容として、国・道が行っているアンケート調査など公表されている数値については、指標評価一覧に記載しております。

資料 P8 から P15 までとなります。

それでは、変更箇所を説明します。

まず P15 をお開きください。

下段の評価一覧の直近値の数値が変更になったことに伴い、特定保健指導実施率の評価が C から B へ変更になっております。

これは前回の数値において、8 月時点では平成 26 年度速報値という形で記載しておりましたが、このたび、平成 26 年度受診率および実施率が確定したことから変更となっております。

次に P20 及び P24 については、計画作成当初の基準値に数値が入っていないことから、無理に評価することなく判定不能の「E」評価としたところであります。

最後に P31 及び P32 については、アンケート結果から「地域の医療環境が整っていると感じている市民の割合」の結果の捉え方を変更し、P32 の今後の課題と方向性について、内容を追記しております。

最終評価結果として冒頭 P7 の総括評価の数値が今説明した内容により、訂正した形となっております。

以上、簡単ではございますが最終評価の訂正、追記についての説明を終わらせていただきます。

阿部会長

ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明を踏まえまして、皆様からのご意見・ご質問等をいただきたいと思っております。

できるだけ多くの皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、ポイントを絞って要点だけお願いいたします。

できれば、大勢の方のご意見をいただきたいので、一般公募の委員の皆様からご意見があればお聞きしたいと思います。

<意見等無し>

特に一般公募の委員と限らずご意見・ご質問等いただきたいと思っております。

<意見等無し>

以前疑問が訂正されたことについて、わかりやすくなっているので、この議題については、ご意見が無くていいと思いますが、よろしいですか。

無いようですので、1 点目の議題については全体的に了ということでよろしいですね。

それでは次の議題に移りたいと思います。

「石狩市健康づくり計画(第二次)素案について」及び「健康意識に関する市民アンケート(案)」についてですが、次期計画を策定する上での健康課題や講ずるべき施策に係る事項、目標値の設定等、それぞれに関連する内容が多数ございますことから、この 2 件につきましては一括して説明を行っていただき、その後、皆様からのご意見やご質問を承りたいと思います。

それでは、事務局より説明をお願いします。

事務局（廣瀬主査）

保健推進課の廣瀬です。よろしくをお願いします。

2 点目の議題について、こちらの資料、「石狩市健康大作戦(案)」によりご説明申し上げます。

事前に資料をお送りしていますので、簡潔にご説明いたします。

まず、表題の「石狩市健康大作戦」ですが、本計画では健康の危機から身を守るために、市民・行政などが一体となってミッションを実行するという計画にしたことから、この名前としています。

それでは、P1 をご覧ください。

本計画の策定の背景となっている社会状況と計画の目的について説明しています。

超高齢化、生活習慣病の増加を背景に、市民の健康を支える環境づくりを推進し、すべての市民が心豊かに、いきいきとした姿で日々の生活を送れることをこの計画の目的としています。

次に P2 をご覧ください。

計画の基本理念は、表紙にも掲げていますとおり、「やらなければならない健康づくり」から“やりたくなる健康づくり”“楽しい健康づくり”です。

健康づくりの主役は本人であり、市民一人ひとりの主体的な健康づくりを推進するため、ミッションは、日常生活に気軽に取り入れられる易しい内容とし、極力読みやすいよう、興味をもって読んでもらえるように配慮しました。

そのため、通例で計画の背景を示す目的で、前段に載せているデータ分析は、市民にとっては、かえって計画を読み進めにくくなることなどから割愛し、各分野の危機を説明する文中に現状の一部を掲載しています。

次に P2 下の基本方針から P4 の計画の期間までは、前回協議会でご説明しておりますので、省略させていただきます。

次に P5 の施策の基本方針をご覧ください。

基本理念・基本方針に基づき、3 つの観点から施策を進めます。

1 点目は、市民が自発的に健康づくりをしたくなるよう、〇〇作戦、例えば「石狩の歩き方作戦」など、メッセージ性を持った施策を展開することとしています。

2 点目は、歩きたくなる、運動をしたくなるような環境の提供や健康づくりのインセンティブ

を作戰に盛り込むことで、市民が楽しく健康づくりができることとしています。

3 点目は、個人の努力だけでは継続が難しいことから、地域の関係団体や企業などの取り組みを支援して、全市的な健康づくりのムーブメントにつなげるよう執り進めることとしています。

このことについては、P5 下からの協働の姿の項で、市民、地域、行政など計画推進に係る方々のそれぞれの役割、ミッションについて記載しています。

次に P7 をご覧ください。ここからは、各領域についての推進ミッションについて記載していますが、全体像がわかりやすいよう 1 枚ものの資料を別に用意しましたので、本日配付したお手元の「オールいしかりで健康づくり」の資料をご覧ください。

この計画では、領域区分毎に先ず始めに健康の危機的問題や市の現状を示し、市民に問題意識や危機感を持っていただくことを意識しています。

そして、その危機を解決するために取るべき行動をミッションとして示しています。

資料真ん中の列に、ミッションの例を示しています。

ミッションについては、できるだけわかりやすい言葉でハードルを高くせず、気軽に“やってみようか”と思える内容にしています。

さらに、市民がそのミッションを遂行するための具体的な支援策を作戰として表しています。

表の右側に例示しておりますが、例えば、上から 2 番目の「適正体重を保持して健康を維持しよう！」というミッションに対しては、「量るだけダイエット 100 日作戰」や「スマートペアレント作戰」など興味関心を持ってもらえるようなネーミングとしました。

「スマートペアレント作戰」は、子どもの健康に対する親への指導で、次世代の健康づくりが重要なことから、各分野に繰り返し、この作戰名が書かれています。

さらに、興味が沸くコラムを各分野に載せることで、理解を深め、取り組みを喚起しています。

表右の領域区分の一番下に「⑩個人の取り組みでは解決できない地域社会の健康づくり」がありますが、この施策として、「石狩健康づくり応援団。」の仕組みを作ります。

これは、計画書の P6 下段に記載していますので、こちらをご覧ください。

「オールいしかり」で計画づくり」を推進するため、関係団体に働きかけ、それぞれが取り組める健康づくりに積極的に参加してもらうものです。

例えば、企業従業員のラジオ体操や昼食後の歯磨き、禁煙など何か取り組めることにチャレンジしたり、出前講座を行うなど、取り組みを一緒に進めるものです。

また、薬局やスーパーなどとも一緒に啓発できることはないか検討していきたいと考えています。

「石狩健康づくり応援団。」に参画する団体は、ホームページ等で公表したり、ステッカーを配付するなどして、例えば企業イメージのアップ等にもつながるようにしたいと考えています。

本計画の中では、この応援団の取り組みをいかに増やしていけるかが、一番重要なところと考えています。

さらに、市民の積極的な健康づくりを応援するため、「ごほうび☆作戰」として、生活習慣改善の実践に応じたポイント制度を創設するなどの取り組みのきっかけづくり、やる気アップを支援します。

P7 から P39 までが、ご説明いたしました健康推進ミッションとなっています。

次に P40 をご覧ください。本計画の目標値です。

ここで、訂正がございます。1 番の「栄養・食生活」の最初の目標値のところ、20～60 歳男性肥満者の割合の目標が 32.0%以下となっているところを 28.0%以下に訂正願います。

それから、4 番の「喫煙」の目標であるたばこを吸う人の割合の減少を男性・女性の区別を無くし、現状を 21.9%、目標を 12.0%以下に訂正願います。大変申し訳ございません。

この目標の達成は、健康づくりに取り組む市民一人ひとりや地域の関係する機関の取り組みの総合力であり、単に行政側だけが達成する目標ではなく、みんなで達成するということを意識していただくため、「みんなで達成する健康の目標値」としました。

目標値については、国・道の目標と整合性を図って設定しています。

表中のアンケート調査後設定に関しては、今後行うアンケート結果から現状を把握し、目標値を設定します。

最後に本日第 4 章、既存の健康増進事業等をお配りしております。

ここでは、現在実施し、今後も継続予定の健康づくり関連の事業を記載しています。

私からの説明は以上です。

事務局（竹瀬主査）

保健推進課の竹瀬です。

私から「生活習慣及び健康意識に関する市民アンケート（案）」について、ご説明させていただきます。

お手元のアンケート（案）をご覧ください。

アンケートは平成 27 年 9 月 1 日時点で年齢が 20～69 歳の市民の方 2 千人を対象に実施いたします。実施方法はアンケートを郵送し、記載後返信封筒に入れ投函していただき、回収いたします。

設問についてですが、全部で 28 問あり、その他、最後に健康意識を高めるために必要な事について、自由に記載いただく欄を設けています。

質問内容についてですが、「石狩市健康づくり計画（第二次）素案」内にあります、第 3 章、健康推進ミッションの「1. 栄養・食生活」の項目から「7. 健康管理・生活習慣予防」の項目までの全 7 項目にあります各ミッションについて、現状を確認するためのアンケートと、ミッションの達成に向けた市民の方のご意見を伺う、二つの内容で構成されています。

私からは以上です。

阿部会長

ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明を踏まえまして、これより、皆様からのご意見・ご質問等をいただきたいと思います。

先ほどの例に習い、先に一般公募の委員からご意見、質問をいただきたいと思います。ありま

すでしょうか。

飯田委員

これは、先日送られてきた、「石狩市健康大作戦（案）」の関係の意見でよろしいですか。

計画全体の作りに関する感想と実際に書かれている内容について、質問を何点かさせていただきたいと思います。

今回の計画作りの全体の構成ですが、一般的に行政が作る計画は、行政から市民に流れる一方通行的なものが多いですが、今回は色々なメッセージ性を設けるといふこと、或いは市民を含めた健康づくりへの取り組み等、いい意味で変わった計画になっており、健康づくりは行政が作るのではなく、市民全体で作るといふ意識啓発になっており、作り方についてはとても良いという感想を持って読みました。

そういった中で、今回は無理でしょうが、次回以降の事業の総括についても、数値だけでABCの評価ではなく色々なソフト事業、行政としては工夫しているというところを市民に見せることによって、逆に数値が上がらない、受診率が上がらないなど、行政のみならず市民の意識そのものも課題であるということをも市民に訴える機会にもなると思うので、次回以降の評価のあり方を検討していただきたいと思います。

実際の計画の中で、2点質問ですが、本日配付となった「“オールいしかり”で健康づくり」のそれぞれの領域区分で①から⑩まで具体的なミッションがあり、これは健康づくり計画の中には記載されない会議用の資料だと思いましたが、この健康づくり計画そのものがP3の真ん中に体系図が記載されており、基本的な方向で5項目、それから領域区分で10項目があります。

計画書のP7「栄養・食生活」から具体的な方向性になると思いますが、領域区分④の食生活から読み進めると「①がん」、「②循環器疾患」、「③糖尿病」、「⑩個人の取り組みでは解決できない地域社会の健康づくり」が出てこない。項目立てになっていないことからこの領域区分については、石狩市健康大作戦から抜けているのではないかと思います。

体系図と目次が合っていないので、おそらく、領域区分の①から③については石狩市健康大作戦のP36の「7.健康管理・生活習慣病」に書かれていると思います。

或いは、領域区分の⑩については、石狩健康づくり応援団の話になると思ひ、そうなる、他の領域区分に入り込むので項目立てをしなかったのかなと思ひますが、この計画を読むと、領域区分①、②、③、⑩の項目が記載されていないように感じてしまうので、わかりにくいと思ひます。

他の領域区分に入り込んだとしても、再掲等と記載してみるといいと思ひます。検討していただければと思ひます。

言葉の関係で、例えばP2の「2.基本方針」、「(2)生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」の文中に一次予防・重症化予防と記載があり、「発症予防」と「一次予防」これは、違う意味なのか、同じ意味なのかわからなかった。

また、類似している用語、P3の社会生活機能と記載しているところと、P7の社会機能と記載しているところもあるので、違う意味であればいいのですが、同じ意味で記載しているのであれば、用語等は揃えた方がいいと思ひます。

あとは、P7 の中段の「しかし、朝食抜き、無理なダイエット」と記載している文面ですが、外食やコンビニ弁当、加工食品の利用などが増え、野菜不足や塩分、エネルギーのとり過ぎなどと記載していますが、個人的にはそう思いますが、外食やコンビニ弁当にしても野菜を使っているものもありますし、家庭でインスタント食品ばかりを食べていればそれはよくありません。

例えば、食品に工夫や栄養バランスが無いものを食べればという「～たれば」記載にしないと、コンビニや外食が全て悪者になってしまうのではないのでしょうか。

この計画は、市民や団体と一緒に協働で行う計画ですといいながら、コンビニや外食が悪者のように書かれてしまうと、本当に「石狩健康づくり応援団。」の仕組みづくりができるのかなという感じを受けました。

阿部会長

ありがとうございます。

いくつかご指摘がありました。いかがでしょうか。

事務局（廣瀬主査）

飯田委員ありがとうございます。

まず P3 の部分ですが、ご指摘のとおり、領域区分「①、②、③のがん、循環器、糖尿病」については、P36 の 7 番の「健康管理・生活習慣病」に含めております、内容的にもそのように考えております。

そういった記述が無いので、見やすく、その分野だというようにお示した方がいいと思えました。

次に、「④栄養」から「⑨歯・口腔」のところはタイトルが同じでして、10 番の個人の取り組みについても、ここに領域があるけれども、領域としての取り扱いが無い部分に関しても、市民の方にわかりやすいように何か工夫が必要だと思えました。

次に、P2 の一次予防と発症予防のところに関しては、同じような意味合いで使用しているので、誤解がないように統一して記載したいと思えます。

最後に、P7 の朝食抜きからのところに関しては、他の委員からもご指摘を受けておりますので、誤解のないような表現にしたいと思えます。

阿部会長

ありがとうございます。飯田委員よろしいですか。

最近、コンビニもすごく努力していますよね。

それでは、他にご意見、ご質問はありませんか。

天野委員

私も飯田委員と同じように全体的な意見と、各論としてお話ししたいと思えます。

飯田委員が感じたように、今回の計画の作りとして、見やすく読んでほしいという意図が見

えて、以前の計画と比べると、すごくその意図が感じられるなと思いました。

私の世代だけかもしれませんが、ミッションというのが行政から課された任務というか、ミッションという言葉は、他の委員さんはどう感じたのかなと思いました。

書き方ですが、例えば、P18 がよく表れていたと思います。ミッション 1 で“質の良い睡眠”をとろう！と書かれていて、市民に訴えていると感じまして、具体的施策と書いているから自分たちはどんな具体的なことをすれば良いか書いているのかなと思ひ読みと、具体的施策というのは、行政のミッションが書かれている。ミッション 2 に移っても、行政のミッションが書かれている。ミッション 3 では企業に訴えている部分かと思うとまた、具体的施策には行政のミッションが書かれていると感じました。ようやく P21 でよりよい睡眠のための 12 のヒントの記載があり、ミッション 1 で市民に向かって訴えている部分の解決策が書かれて、見やすくなったのは良いと思いますが、書き方が難しいけれどももう少し工夫してほしいと感じました。

また実際に、石狩健康大作戦を実践する上で、P6 の行政のミッションと書いていて、地域や関係団体、企業と協力しながらと、色々なところに書かれていますが、P8 の食の学び作戦、学校での食の指導には教育委員会との連携、P29 は思春期の子どもを持つ親に向けた講座で、PTAとか社会教育の分野で、生涯学習の範疇に入ってきますが、行政のミッションとして、教育委員会との連携がないとうまく進まなかったのではないかと感じました。

最後にもう一つ、強く感じたのが、P23 喫煙の部分が出てきて、ミッション 1 が「自分と大切な人を守るために、たばこをやめよう！」と書いてあり、施策自体はすごく良いものであると感じましたが、具体的施策を実行しても、有効性に疑問を感じます。りんくるでも昼時になると職員の方たちが敷地内でたばこを吸っているのを見かけます。決して責めている訳ではなく、私も昔、喫煙経験がありますのでなおさら感じるのですが、良い施策だとは思いますが、実際に禁煙する人が増えるのかなと思いました。市役所作戦でポスターを掲示しただけでは、喫煙者は減らないと思いました。

この辺りを各論として進めて行くのに周りにいる喫煙者と話し合っ、施策を作ったらどうかという感想を受けました。

阿部会長

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

事務局（廣瀬主査）

まず、P18 のミッション 1 を例に挙げた質問で、市民に訴えているのかなと思ったり、行政のミッションだったりするという印象を受けたことですが、ミッションという言葉が行政から課されているというような感想を持たれたということでしたとおり、ミッションというのは、文中でも説明しましたとおり、みんなでミッションに取り組むということなので、それを行政から発信した時に市民の方にどう受け取ってもらえるのかということ、委員の皆さんにご議論いただければと思う面もございますけれども、そのあとの、具体的施策のところでは、〇〇作戦とか

作戦名を書いております。市民の方がミッションを達成するための施策の 1 つの例であって、こういう支援が無くても、ご自分のやり方でやっていただいてもいいのかなと思うこと、本日、第 4 章として、お配りした既存の事業と組み合わせで推進していければと考えております。

学校との連携につきましても、前計画でも、なかなか難しかった点がございますけれど、それについては、今後取り組んでいかなければならないと思っております。

たばこについてですが、この健康づくりの中で、やはり喫煙率を減らすということがとても大事だと思っております。

ご指摘のとおり市役所作戦はポスターのことしか書いておりませんので、もう少し踏み込んだ施策があるかどうか、このあと引き続き検討したいと思います。

ただ、禁煙サポート作戦においては、特定健診を受診した方に、特定保健指導を実施しているので、その中でも行っていきたい。また、禁煙したいと思っている市民の方を積極的に後押ししたいと考えております。

事務局（武田課長）

補足させていただきます。

健康づくりの取り組みは市民それぞれ 100 通りはあり、行政が主体となって出来ることを例示し、やる気を起こしていただくという仕組みの中で、市民一人ひとりがひとつずつ健康づくり作戦に取り組んでいただければと思っています。

出来るだけメニュー化出来るものはしたいと思っております、今回のアンケートの意見を作戦に盛り込んでいきたいと思っておりますし、この場でいただいたご意見についても検討したいと思います。

ミッションという言葉については、市役所にもミッションが与えられていて、市民や市内に通勤する方が、みんなで健康づくりに取り組むという位置づけで表現しています。

アンケート等での市民意見も踏まえてミッションという言葉については、表現方法とか注釈も含めて、説明して対応していきたいと現段階では考えております。

阿部会長

ありがとうございます。天野委員、よろしいですか。

天野委員

はい。

飯田委員

細かいことで申し訳ありませんが、「石狩健康づくり応援団。」の説明が P6 に記載があって、具体的なミッションの項目の中で、P10 と P25 に応援団の施策が出てきます。

P10 の具体的施策のいわゆる行政ミッションだと思いますが、④の説明に「石狩健康づくり応援団。」への参加を促し、公表、表彰をすると書いており、P25 の喫煙関係の下段の「①おいし

い空気の施設作戦」の中でも、「石狩健康づくり応援団。」の記載があり、ここでは、公表、表彰の言葉がありません。意図があつて作ったのか、偶然かわかりませんが、片方は、積極的に勧誘すると記載があり、ひとつは参加を促しと言いながら、公表と表彰をあえて外したのか、偶然なのか意図があれば教えてください。

あともう一点、P14のこれは運動の関係ですが、歩くための工夫ということで、項目が4つありまして、4つ目の項目に車や自転車を使わず、歩けるところは歩くと記載してありますが、個人的にあまり効果は出ていませんが、健康づくりの一環として、なるべく自転車を使って行動するようにしているのですが、ここでは歩くということの工夫なので、あえて使用したかもしれませんが、歩いたほうが良く、自転車は良くないという風に思うと疑問に思い、車を使わずに歩くというのはわかりますが、自転車は使わずに歩いた方がよりよい方法で、私が実践している自転車は効果が無いという風に感じてしまいました。

歩くための工夫ということでしょうが、自転車で健康管理をしている市民がそんなに効果が無いと感じてしまわないかなと思いました。

以上2点です。

阿部会長

ありがとうございます。いかがですか。

事務局（廣瀬主査）

飯田委員、ありがとうございます。

P10とP25の最初のご質問である、表現の違いですが、こちらについては、まだ、「石狩健康づくり応援団。」の参画を促すというような、自分たちの計画の中にはあるのですが、それを具体的にどのように表彰するか、また、どのようなことに参加したら表彰するかなど、細かいところのつめが来ていませんので、このような表現になっております。

そのこのところを読みやすいように努めて、表現の方法を工夫したいと思います。

事務局（村谷課長）

スポーツ健康課、村谷と申します。

P14の歩くための工夫で車や自転車を使わず、歩けるところは歩くという表現であります、あくまで自転車が悪いというわけではありません。

歩けるところは歩くという表現をしたつもりでございますので、近いところは歩いてもらう、という表現で書かせてもらいましたが、この辺の文言の整理も含めて検討させていただければなと思います。

以上です。

阿部会長

ありがとうございます。飯田委員、よろしいですか。

飯田委員

はい。

阿部会長

その他よろしいですか、お考えいただいている間にたわいなことですが、「石狩健康づくり応援団。」という語句に「」がついているのはいいですが、文章ではないのに「。」がついている理由を教えてください。

事務局（廣瀬主査）

今は、ただの小さい「○」ですが、皆さんに公表するときには、馴染みを持っていただけるようなロゴ風なものにしたいと考えております。

阿部会長

わかりました。ロゴの代わりに入っているんですね。
他にご意見・ご質問ありませんか。

飯田委員

P1 の真ん中あたりに「このような危機的状況を脱するために」という文書がありますが、ここでいう危機的状況というのは何をもって言っているのでしょうか。

人間はいずれ亡くなりますので、自殺かそれともなんらかの疾患が入ってくると思いますが、たまたま、ここでは循環器や糖尿病などで6割の人間が命を落とす、例えば、この死亡原因が3割になったとすると他の病気で死亡するのであれば危機的状況じゃないというのか、何の状況をもって危機的と記載したのかなと思ひまして。

事務局（廣瀬主査）

ご指摘いただければ確かにと言うところで、そのような病気で命を落とすというのが問題なのではなく、やはり生活習慣病で生活の質が落ちること、自立して生活できる健康寿命が短くなることが課題だというような表現にしないとわかりにくいと思います。

阿部会長

ありがとうございました。
その他ございませんか。

事務局（武田課長）

補足させていただきますが、ここに書かれている、生活習慣病や循環器などは、要するに未然に防げる可能性が高い病気で6割も亡くなっているのであれば、改善していただくのが大前提に

なるので、そこを放置している事が危機的状況であります。我々のやり方次第で改善できるということと捉えていますので、そこを改善したいと思っています。

因果関係を調べて、手をかければ改善できるのにしていないという危機的状況もあると考えております。

阿部会長

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

私のイメージでは例えば、健康寿命の延伸に係る施策として、長野県の成功例が考えられます。

札幌市にも講演でいらっしゃっていましたが、諏訪中央病院名誉院長の鎌田 實先生は、長野県では地域の方が習慣的に野沢菜漬けを食べていたことにより、塩分摂取量が高い傾向にあることから脳卒中の発症につながっているのではと想定し、地域の保健師や様々な関係者を巻き込んで、食生活の改善指導等の運動を盛り上げた事に尽力したところ、全国で健康寿命が一番長い県にまでなったと聞いています。

石狩市としましても、様々な施策がミッションとして計画に盛り込まれていますが、例えば減塩対策であればこの長野県の成功例であるとか、ミッションのモデルとなっている先行自治体の事例をイメージして盛り込んだものはありますか。

事務局（武田課長）

全国的な先進地事例を念頭に描きながら、対策ミッションを練っています。

国でも同じようなミッションを並べていますので、それを的確に実行し、住民がやる気を起こせば、最初に書かれている危機という部分は解消できると思っています。

そのようなモデルを参考に石狩市でミッションを組み立てています。

阿部会長

自治体ごとに環境が違ったり、市民感情も違うのでそのまま取り入れても仕方がないと思いますが、学ぶべきヒントは大いに学んだほうがいいと思います。独自にミッションを展開するのもいいと思いますが、それだけではうまくいかないかもしれないなと思います。

先進事例に石狩市が学べる点があれば大いに学ぶという姿勢は必要であると思います。

事務局（武田課長）

そのようにしたいと思います。

阿部会長

他の委員どうでしょうか。全体をとおしてご質問いただければと思います。

よろしいですか。

中川委員

私、この計画はすごくいいなと感じています。

ただ、見せ方が少し気になります。

無理なのかもしれませんが、先ほどの P3 の領域区分の順番と後ろに来る順番が違うということに違和感があり、理解するのに時間がかかりました。

それとページを見ると例えば、栄養・食生活ではミッション 1 があり市民がどういうところを心がけましょうというのがあり、次に施策があり、この 2 本立てというのはとてもわかりやすくいいと思いますが、ただ、ページをめくっていくと具体施策がページの上に記載となっているものがありますね。

これは、施策を宣伝しているように見えます。

全体として、市民がこうで、次に施策がサポートしているという形に見えないところがありそうで、誤解を減らすと随分違うように見えると思います。

あと「量る」という字がこの資料とこちらの資料の「測る」では違う点を修正してください。

阿部会長

たぶんその対応関係がもっとわかると市民に受け入れやすいですね。

内容については、委員のみなさんは評価してくれていると思いますが、示し方で対応がしっかりしていると、理解しやすいと思います。

よく読んで見ると、こことここが対応しているとわかるが、構造的な対応がしっかりしていないので対応関係をしっかりとすると受け入れやすいと思います。

事務局（武田課長）

中川委員のご指摘大変参考になりました。

体裁はこれからしっかり直していき、メッセージ性の高いものにしていきたいと思います。

阿部会長

ありがとうございます。

よりよいものとするために中川委員のようなご意見ありませんか。

我妻委員

市民全体というか、各市民というのは、色々な年齢層があるので、子供であったり成年層だったり年寄りだったり、そのあたりのポイントを突くようなことをやるともっといろんな角度からできると思いますが。

阿部会長

いかがでしょうか。

事務局（廣瀬主査）

申し訳ございません。

説明の中から抜けておりましたけれども、コラムの前にライフステージごとのミッションを設けておまして、言葉によるライフステージ別のミッションを記載しているのですが、今回の計画は例えば、乳幼児は P4 の一番上の表の右側に市の関連する分野の個別計画が記載しています。

子供であれば、「こども・子育て支援事業計画」、高齢者であれば「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」がございまして、その中で具体的な取り組みがなされておりますので、今回はその内容に重複しているようなものは扱っておりませんので、そのような疑問を持たれたのではないかと思います。

さらにこの辺は、市民に深く PR したほうがいいというのがございましたら、教えていただければと思います。

阿部会長

他にいかかでしょうか。

飯田委員

アンケートの様式の関係ですが、せっかく今日の意見を反映した後に最終的にどういう形でアンケートが纏まるかわかりませんが、市民と行政との協働計画の形の中で表現されるのであればアンケート用紙の方も、例えば、生活習慣病でいえばあなたは減塩をしていますか、たばこは何本吸っていますかの質問の後ろの方に、喫煙のミッション②だとか、こちらの計画と市民のアンケートがリンクしているのが良かったほうがいいと思います。

市民側もこのミッションはなんだと思うと、この計画から発信しているんだと理解しやすいのでいいと思います。

事務局（武田課長）

飯田委員のご提案ですけれども、ご提示したアンケートは計画作りの参考数値を取ることを優先していますので、難しいと考えております。

阿部会長

おそらくアンケートをした後で集計する時には、事務局としてこれがミッションのどれに対応するかというのは読みながらすると思うので、アンケートの方が先なのでそれは無理でしょうね。

或いは、アンケートとしては、このミッションの為の項目ですよというのがわからないほうがいいと思うんですね、先入観が無くなるので。

他にご意見はございませんか。

<意見等無し>

無いようですので、2 点目の議題についても全体的に了ということによろしいですね。

先ほどの説明にもあったとおり、本日の意見等を踏まえて修正していくということなので、あとから気づいたことがあれば、書面・メール等で事務局にお寄せいただくということでしょうか。

<意見等無し>

3. その他

阿部会長

それでは次に「その他」となっておりますが、事務局より何かございますか？

事務局（鈴木主査）

次回の協議会につきましては、本日いただいた意見等を反映した計画案をご審議いただきたいと考えております。

開催時期につきましては、12 月下旬から 1 月上旬の開催を予定しており、審議後の承認を得た後にパブリックコメントを実施していきたいと考えております。

年末・年始と忙しい時期かとは存じますが、今回と同じく皆様の日程を調整のうえ、開催日を確定させていただきますので、皆様の協力をよろしくお願いいたします。

4. 閉 会

阿部会長

それではこれもちまして、「平成 27 年度第 2 回石狩市健康づくり推進協議会」を閉会いたします。

遅くまで皆様、お疲れ様でした。

平成 28 年 3 月 4 日 議事録確定

石狩市健康づくり推進協議会 会長 阿 部 包